

③	②		①
とつても	あつた	よんだ	な
すつきり	とき	とき	み
する	うれい	おはなし	だ
	こと	を	
	が	けんか	
		を	
		した	
		とき	

「かいせつ」

(1) この しは なんの ことについてか
かかれて いるのかを かんがえよう。

(2) と (3) は しの つぎの ばしょにか
かれて います。

(2) けんかを した。
かなしい おはなしを よんだ。

とつても うれい ことが あつた。
いろんな ことが ある たびに、

(3) わたしたちは なみだを ながす。
なみだを ながした あとは

なんだか とつても すつきり する。
きつと なみだが こころの なかの
おそうじを して くれて いるんだ。

③	②	①
てるてるぼうず	あるから あしたは うんどうかいが	あしたも 雨が ふって しまうのでは ないかと いう こと

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて います。

① もう 三日かんも 雨が ふりつづいて います。

② どうこは、このままだと あしたも 雨が ふつて しまうのでは ないかと、とても しんぱい して いました。なぜ そんなに 天気を 気に するかと いうと、あしたは うんどうかい があるからです。

③ どうこは、あした はれる ように てるてる ぼうずを つくる ことに しました。

③	②	①
はっぱ いろとりどりの 木の	ア	あきの 日

「かいせつ」

(1) しに「赤や きいろ いろとりどりの 木の はっぱ」という ぶぶんがあるので、きせつは あきになります。

(2) かぜが ふいて いる ようすを あらわす ことばを えらびます。

(3) しの つぎの ばしょに かかれて います。

赤や きいろ

いろとりどりの 木の はっぱは

一まい のこらず

とおくへ とんで いきました。

③	②	③
てるてるぼうず	あるから あしたは えんそくが	一しゅうかん

「かいせつ」

文しょうの つぎの ばしよに かかれて います。

① もう 一しゅうかん 雨が ふりつづいて います。

けんじは、このままだと あしたも 雨が ふつて しまうのでは ないかと、とても しんぱいして いました。② なぜ そんなに 天気を 気

にするかと いうと、あしたは えんそくが あるからです。

③ けんじは、あした はれますようにと てるてるぼうずを つくる ことに しました。



②	①
ウ	青い 草の じゅうたんの 上を すべる ように とんで いる

「かいせつ」

(1) しの つぎの ばしょに かかれて います。

赤い ふうせんが

青い 草の じゅうたんの 上を

すべる ように とんで いきます。

ゆく あても なく

どこまでも ふわふわと。

きょうは わたしの ところへ、

あしたは あなたの ところへ。

ふうせんの たびは、

まだ はじまったばかり。

(2) ふうせんが かぜに のって とんで

く ようすを あらわす ことばを えらび

ます。



②	①
<p>とぼくを</p> <p>なつが「いっしよにあそぼう」</p> <p>さそうから</p>	<p>まっさおな空に、まっ白い</p> <p>大きなにゆうどうぐもが</p> <p>でている。</p> <p>たいようは、じめんを</p> <p>じりじりてらして</p> <p>いる。</p>

「かいせつ」

① しの つぎの ばしよに かかれて います。

まっさおな 空に

まっ白い 大きな にゆうどうぐも

たいようは じめんを じりじり てらして

② せみは みんなで だいがっしょう

なつが

「いっしよに あそぼう」

とぼくを さそうから

山のように のこった しゅくだいは

これっぽっちも すすまないんだ

